

美しい集積所 成果報告

テーマ カラス対策＋ごみ分別の促進

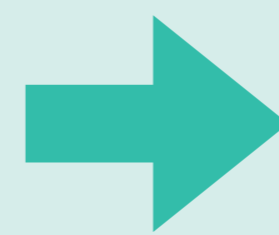
課題① カラス対策

カラスによるごみ荒らしの被害により、集積所の景観や衛生の悪化・回収作業の手間の増加が挙げられる。



課題② ゴみの分別問題

埋立地の残り寿命は残り数十年しか残っておらず、特にプラスチックごみが問題とされている。正しい分別で埋立地の寿命を伸ばす必要がある。



カラス対策による物理的な防御と
ごみ分別による心理的な仕掛け
を組み合わせ
「自然と行動が変わるデザイン」
が求められる

取り組み

足立区清掃事務所訪問

職員の方から取り組みについて伺い、実際に集積所の様子を見学

事例① 折りたたみ式BOX「とりコン」



利点
カラスによる荒らし被害の防止
課題
・耐風性が弱い
・約7割の家庭が片付けを徹底できていない

事例② クロウコントローラー



カラスへの効果
導入当初は有効だが、学習能力により時間が経つと効果が薄れる
人間への効果
「カラスが多い地域」という警鐘になり、住民のゴミ出しマナーが向上する副次的なメリットがあった。



物理的な遮断で「カラスを慣れさせない」機能性と、分別状況の可視化で「住民の意識を維持する」仕組みづくりが必要

東急電鉄蒲田駅訪問

職員の方からお話を伺い、フクロウカカシを調査した

事例 フクロウカカシ



カラスによる路線への置き石を防止するため2023年に設置されたが、現在は**効果が消失**。カラスは最初は警戒するが、無害だと判断すれば慣れてしまう。



カラスの学習能力を考慮して収集BOXをデザインする必要がある

最終提案

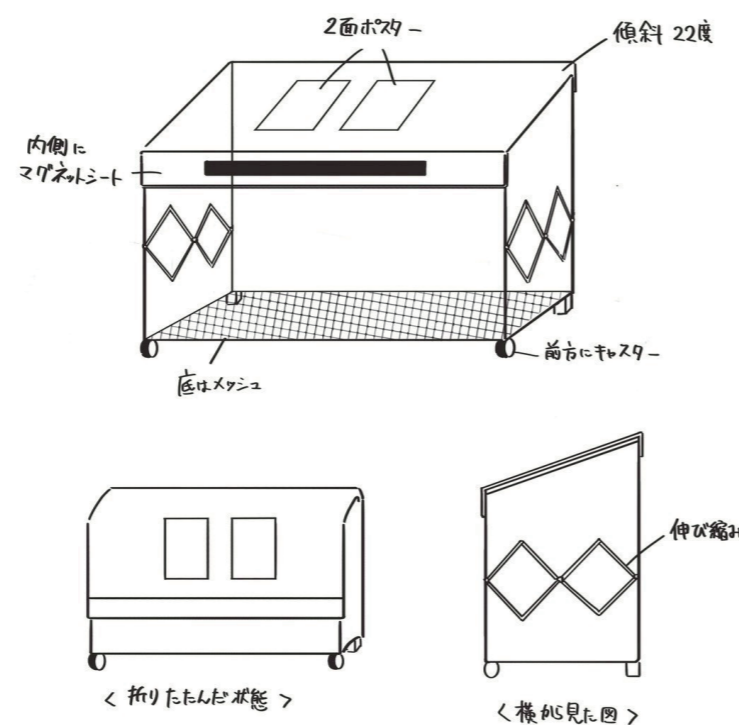
① 改良型収集BOX

「とりコン」を参考に、改良・発展させた収集BOX



形状
22度の傾斜：カラスが留まることや、ポイ捨て防止
マグネット蓋 & 底面ネット：密閉しつつ、通気性を確保

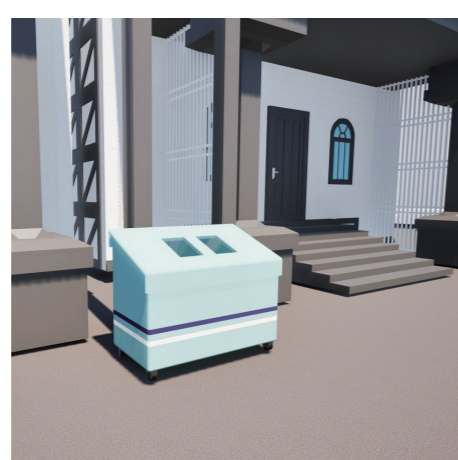
構造と素材
蛇腹式 & キャスター付：誰でも片手で簡単に折り畳み・移動が可能
日傘素材：ポリエステルと遮光フィルムの採用で、超軽量・耐水・UVカットを実現



3色のカラー展開



住宅街と調和するカラー

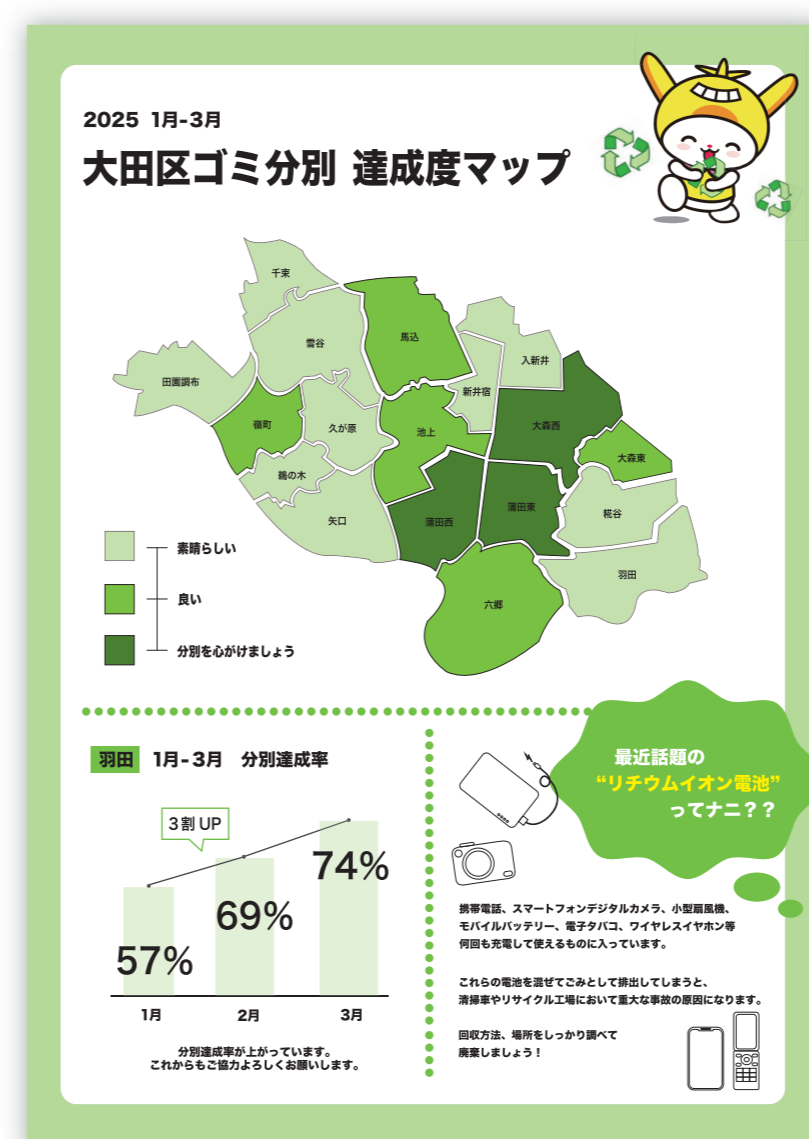


空港イメージのカラー



下町イメージのレトロカラー

② 分別促進ポスター



住民の意識を変える「数値の可視化」

言葉による啓発から**数値によるアプローチ**にすることで、住民の心理に働きかけ、自然な行動変化を促すことを目的としている。

更新頻度：3ヶ月に1回
掲示場所：収集BOX蓋部分のポスターポケット

上段：大田区全体の分別状況
大田区の分別状況を3段階の色で表現。近隣地域と比較することで、分別のモチベーションを高める。評価基準は収集不可シールの枚数またはプラスチックの排出予想量÷実際の排出量

下段左：地域ごとの詳細データ
18地域別の分別達成率をグラフで表す。自分たちの活動成果を具体的な数値で把握できることで、分別を習慣化させる。

下段右：コラム
ゴミ分別について住民の方々に知ってもらいたいことを記載する。